

## 2007 年度第 6 回 PSLX 技術部会 議事録

日時：2008 年 3 月 26 日（水）14:00～18:00

場所：製造科学技術センター第一会議室

出席者：西岡靖之（法政大学）、河内伸仁（岩井機械工業）、高橋達也（横河電機）、山本明人（光電製作所）、山田昌宏（シーガル）、野村卓司（三菱電機システムサービス）、王喜宏（富士電機システムズ）、川内（プロセス経営研究所）、岡宗秀一（事務局）

資料：

- (1) 前回議事録
- (2) PPS 技術部会資料
- (3) PDCA サイクルモデル（ホワイトペーパー）ドラフト ver1
- (4) EDI 関係資料（自社内での取り組みから社外との連携にむけて）
- (5) ISA-95 チュートリアルセミナー資料

### 1. 前回議事録

前回議事録を確認した。

### 2. 関連する部会等

#### (1) PPS 技術部会報告

パブリックレビューが終了。委員会仕様として申請する予定。

#### (2) MESX の活動報告

・9月のMOFへむけてデモシステムの仕様書を作成中。

ユースケースとシナリオの定義（特に粒度）について質問があった。

MESX-J は APSOM/PSLX のジョイントプロジェクトなので PSLX フォーラムの多くのメンバーの参加を呼びかける。

### 3. PDCA モデル（ドラフト）についての議論

PDCA サイクルモデルのドラフトについて議論した。いくつかの意見があり、その内容を次回のドラフトに反映することとした。主な意見は以下のとおり。

・PDCA の解釈のうち、C、A について問題発見、問題解決という方向性は、品質管理や保守管理を扱ううえで便利である。

・各サイクルのステップで PDCA が入れ子になっているが、それを厳密に扱くとモデルが複雑になるので、割り切る必要がある。

・計画の解釈について、何を計画するかについて、何でもありとなる。ここでは、製造現場の目的としてモノづくりがあるので、ものづくり（製造、生産）の計画と限定する必要がある。

#### 4. EDI モデルについての議論

川内委員より、EDI と PSLX の接点について資料をもとに説明があった。資料は図面の共有についてのものであるが、これをベースにホワイトペーパーの内容を固めていきたい、との説明があった。

- ・ 設計部門における情報交換のためには、CAD の互換性や、図面つきの取引について EDI がカバーする必要がある。特に中小企業について重要。
- ・ 生産計画、在庫情報等を開示するという流れが重要となる。これは現時点では Web-EDI で実現されつつあるが、これとあわせて企業間で個別 (Push) の情報通信によって実現する方法がある。ホワイトペーパーで、このあたりの方向性を示せるとよい。
- ・ APSOM が扱う情報連携は、トランザクション系 (オーダーや在庫など) であり、技術情報 (マスター系) ではないのでは？
- ・ 情報の送り手と受けての関係は、1 : 1、1 : N (N : 1)、N : N の 3 パターンがある。APSOM としてとりくむべきはどのパターンか？企業内の情報で外部に開示するもの、
- ・ 次世代 EDI のプロジェクトが国で動いている (次世代 EDI 推進協議会)。トレーサビリティ問題に適用することがひとつの目的。
- ・ 企業間のデータ交換で、サプライチェーン関連に情報がメインであり、エンジニアリングチェーンについてはまだこれから。たとえば、図面の交換等はまだまだ。大手もまきこんでこの部分のデータ交換が APSOM の標準を利用して可能だろう。

#### <論点>

- ・ エンジニアリングチェーンは扱う？ Yes (今後のテーマとして問題提起)
  - 設備情報を公開する (1 対 N 型)、見積もり時に利用
  - 製品モデルは図面および BOM 情報 (販売、保守用の BOM) が重要
- ・ サプライチェーンについて大手は対象とする？ 中小企業をターゲットとする？
  - 大手の SCM はとりあえず除外。中小については、コンテンツを PSLX で変換可能とする。エンジニアリングチェーンの部分は、コンテンツのみ PSLX で対応する。
- ・ 1 対 1 の連携以外 (1 対 N) も扱う？
  - すべてあり。
- ・ データ交換のプロトコルはどこまで細かく議論する？
  - あまり深入りしない。ごく簡単な (セキュリティなどがいらぬ場合など) ものについて暫定的に対応する (PPS プロトコル等)
- ・ 当面の成果としてどのようなビジネスプロセスへの適用を狙う？
  - それぞれのパターン (1 : 1、1 対 N、N 対 N) について典型的な利用例を示す。
- ・ EDI 電文そのものを PSLX で表現するか、既存に EDI 標準を利用して、入り口・出口で変換するか？
  - 中小企業内部では PSLX で統一。電文は、ケース BY ケースで。既存の EDI がある

場合は、基本的に変換する方向で考える。

#### 5. その他

ISA-95 セミナー（資料5）についての案内があった。

#### 次回の会合

5月の部会はISA95のチュートリアルセミナーに代える。

次々回は7月。日程は追って調整する。

以上